

金子兜太のふるさと投句

第二回特選・入選作品

選者 中村 琴江

※都合により、選者を変更しています。

特 選

天空の耕地を守る虫送り

深谷市

保坂 嘉郷

講評

皆野町日野沢地区では、古くから害虫駆除と疫病よけの行事として「虫送り」が行われています。梵天を掲げた世話人の願いの歌に合わせて、老若男女の行列が耕地中の山道に続きます。その姿のたくましさで願いの強さに作者は感動したのでしょうか。格調高くお見事な一句です。

美の山に和銅風あり八重桜

飯能市

加治 信泉

講評

関東の吉野山を目処に植えられたという、桜の名所美の山に作者は訪れたのです。広い美の山山頂に遊び、和同遺跡のある和銅山から吹上げて来る風を和銅風と感じ「和同開珎」に思いを馳せたのです。八重桜の下で春を満喫されたのでしょうか。味わい深い作品です。

鶯や兜太の里の味噌ポテト

板橋区

喜納 とし子

講評

鶯の鳴き出す頃は、和菓子屋さんのウインドウに色とりどりの和菓子が出揃う季節です、作者の目に入ったのは味噌ポテトなのです、しかも兜太先生の里の名物です、食べ物の句はおいしそうに詠むのが良いのです。食べてみたいと思わず声の出そうな明るく調べのよい句にひかれました。

入 選

大人の部

風に在り風にこぼるる夏の萩
巡礼に秩父連山春の雪
花の夜やさい銭箱に猫眠る
狼は今でも見ゆる山桜

威を放つ伊昔紅像夏山河
たずね来て青葉若葉の結願寺
稲架掛けや重き香りを抱へ上げ
老鶯のゆるりと啼けと磴のぼる
紅梅の香をしよい上げて札所道
結願の余韻置く杖青葉風
結願寺祈る声消す虎落笛
翳す手も働きし手よ盆踊
老鶯やこは美の山山頂ぞ
結願の想いにしみる蟬の声
兜太句碑文字ふとぶとと雲の峰

小人の部

ひまわりは雨ふる日でも太陽だ
大いちよう黄色い秋のおくりもの
夜まつりは人々人々ではずんでる
新緑やかけ抜けてゆく風と君
秩父音頭びびく夜空に散る火花
美の山のあじさいキラキラしんこきゆう
みさわがわホタルがダンスおどってる
音頭祭りおどるわの中うたの中
まらしました皆野じまんのぶどうがり
柿の実や古き仏は暗がりに
美の山のさくらほほえむ皆野町
ゆかたきてみんなでおどる秩父音と
美の山でこうよう楽しむハイキング
につこりとえがおでおどるうちらぶおんど
美の山に大きな火花咲かせるよ

さいたま市 星 輝
皆野町 新井 進
町田市 望月 総子
深谷市 瀬下 坐高
小鹿野町 原島 勝子
藤沢市 武尾 一春
長瀬町 大前 英俊
流山市 村高 卯
秩父市 町田 ヨウ子
川崎市 村田 昭三
皆野町 原 和幸
さいたま市 増田 信雄
小鹿野町 清水 知子
東久留米市 池ノ上 淳子
秩父市 設楽 キマ

皆野町 黒澤 伯健 (十歳)
皆野町 平 陸人 (十二歳)
皆野町 太幡 琉美花 (八歳)
皆野町 引間 玲奈 (十一歳)
皆野町 金原 陸 (十歳)
皆野町 新井 晴仁 (九歳)
皆野町 荒船 真咲 (七歳)
皆野町 中村 茉優 (九歳)
皆野町 小林 飛雅 (十一歳)
皆野町 河内 幸太 (十一歳)
皆野町 引間 木葉 (十一歳)
皆野町 櫻井 結香 (八歳)
皆野町 大沢 凜 (十一歳)
皆野町 福嶋 さと (六歳)
皆野町 福田 彩華 (十歳)

問合せ 皆野町商工会 ☎62-1311